

## ～見てわかる支援～

視覚支援のような環境調整は障害や診断名の有無にかかわらず、全ての子どもにとって、伝えられている内容をわかりやすくするものです。今回は、その例をいくつかご紹介します。

(※あくまで一例ですので、その子の特性に応じて対応していただければと思います。)

### ①「スケジュールボード」



●日課を、簡単な絵や写真にして順番に示す。  
その日の予定が一目でわかるようにします。  
スケジュールの予告「お支度」「トイレ」「自由遊び」「散歩」「手洗い」「給食」などのカードをボードに順番に貼り、その日の予定が一目でわかるように表示します。  
(園でも取り組んでいます)

●終わった活動から剥がしていくことで、やるべき活動が明確になってわかりやすいこともあります。

使うカードは、おうちや園とで統一しておくこと、「同じ指示」ということが理解しやすいです

### ②「ことばだけでなく、実物を示す」



●言葉だけでなく、実物や実際の行動を見せながら言葉がけをすることによって、実際の行動と動作が結びつきやすく、理解に繋がります。

### ③ジェスチャーを多く使う



●ジェスチャーがあると、「なにについて話しているのか？」を理解する手がかりになります。  
●行動と言葉が結びつきやすくなるため、理解語彙の橋渡しにもなります。  
●注意のそれやすい子も、動きがあることで注意をむけやすくなります。

### ④お部屋の中の刺激を少なくする



●視覚的に補助するだけでなく、不要な刺激を減らしてあげることも一つの方法です。

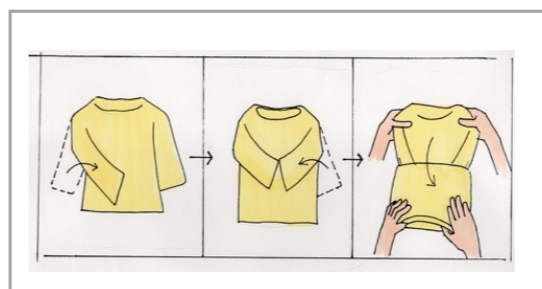
●刺激が多い環境の例  
注意が逸れやすいものがたくさんあり、注目を向けづらい。  
<ロッカーからはみ出したバッグ、床に散らばっているクレヨン、はためいているカーテン、部屋の装飾など>

●視覚刺激を減らした例  
カーテンをはためかないように固定する、室内装飾は少なめに、ロッカーの整理かごは色を揃えるなど、過剰な刺激を避ける工夫をしています  
(明るい光などに過敏な子もいるので、外からの光が気になる場合はカーテンを閉めるなどして光量を調節する対応をとるのも有効です)

< おうちでは・・・ >

おもちゃが見えるところにあったり、テレビがついていたりすると、注意が逸れてしまい、していることや声かけに注意を向けるのが難しい事があります。環境調整を行うことで、注意を向けやすくなるかもしれません。

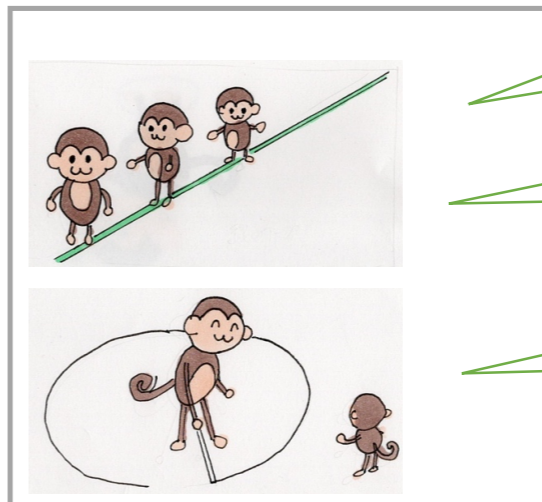
### ⑤手順を図解する



●行動を順序立てて考えることが苦手な子や、空間の中の物の位置関係を読み取ることが苦手な子があります。順序立てて書いてあげるとわかりやすいことがあります。

●複数の絵がページに並んでいるのがわかりづらい場合は、一つ終わるごとにページを捲るようにすると良いかもしれません。

### ⑥抽象的な指示語を減らし具体的に場所を示す。



●「ここ」「そこ」などの言葉は抽象的なので、具体的に指示してあげると、何を求められているのかがわかりやすいです。

例) 「そのへんに集まって並んで」と言う代わりに、緑のテープを貼って「緑のテープのところに並んでね」と具体的に指示する。

例) 園庭で丸く走るときに、先生がイメージする「丸」の大きさをチョークや棒で書いて示す。